

紀北9団体 成果発表



発表順 (紀北)

発表者の方はスクリーン
向かって右手にお並びく
ださい

1. 和歌山市
2. 海南市
3. 橋本市
4. 紀の川市
5. 岩出市
6. 紀美野町
7. かつらぎ町
8. 九度山町
9. 高野町

1.和歌山市

R6年度DXの取り組みと成果

- ①ペーパーレスから始めるDX推進
- ②オンライン申請の拡充
- ③DX研修メニューの進化と深化

ペーパーレス目標値の調達量20%削減を達成する見込みであるほか、件数ベース65%の手続きでオンライン申請可能とするなど、身近で実践できるDXから愚直に推進中

用紙調達

量
100

80 %

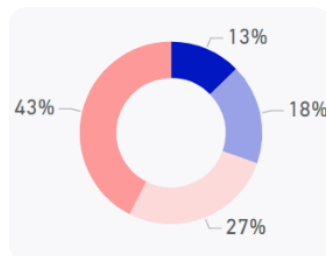
オンライン申請可能割合

56



65 %

よろず相談を活用した取り組みと成果（上記と対応）



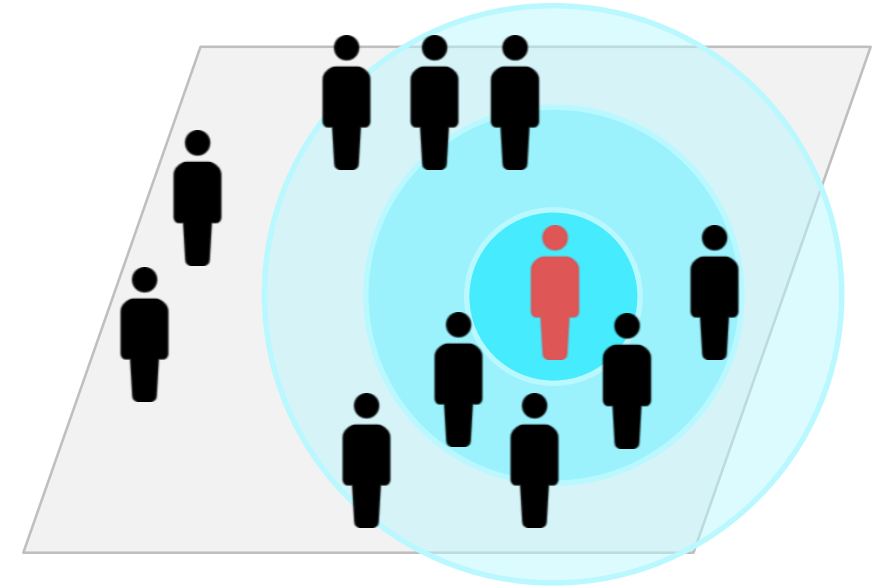
- ①職員DX意識調査実施と他5自治体との連携
- ②研修実施およびアドバイザー紹介



次年度の取り組み予定

- ① サービスデザイン
- ② データフレンドリー
- ③ DX推進リーダー*_{仮称} 育成

ユーザー本位のサービスをデザインし、データフレンドリーを合言葉にデータを利活用し、そしてDX推進の輪を広げるためDX推進リーダー*_{仮称} 育成に取り組みます！！



デジタルも使い窓口改革



庁内データ、オープンデータ、ダッシュボード整備



勉強会や現地調査等



2. 海南省

R 6 年度 D X の取り組みと成果

海南市

① 海南市デジタル化冊子作成

- ・ DXに取り組む背景
- ・ MVV(ミッション・ビジョン・バリュー)
- ・ これまでの取組
- ・ これからの取組
- ・ 今後の取組スケジュール
⇒ 共通意識の醸成



② データ利活用 (Tableau)

- ・ 自治体開催のBIツールの研修への出席
- ・ 職員を対象としたデータについての研修会の開催



■ 冊子内容例

DXに取り組む背景

現状の課題

- ① 働き手の減少
日本の人口は減少傾向にあり、このまま減少が進むと人手不足に陥り、行政サービスの維持ができなくなることが懸念されます。
- ② 住民のニーズの多様化
戸籍や税金、マイナンバーカードなど、自治体で行う手続きの数が増加しており、多くの人手が必要です。

今後の課題

- 職員1人当たりの負担が増加
- 行政サービスの低下

課題解決に向けて

- 利便性や安心感が高い行政サービスを提供するため、デジタルの力を使う。
- 海南市は、「デジタルの力で築く笑顔あふれる持続可能な社会」を組織の目指す方向性に掲げ、DXに取り組む。

よろず相談を活用した取り組みと成果（上記と対応）

- ① 冊子の今後の活かし方/取り扱い方法等
- ② BIツール勉強会への参加

次年度の取り組み予定

①データの利活用（Tableau）

- ・ 職員を対象とした研修会の開催（2回目）
- ・ Tableauを使用した各種ダッシュボードの作成と公開



②生成AIの活用検討

- ・ LoGoチャットでのAIアシスタントBOTの検討



海南市

1 度目の研修満足度（★1～5）

★4.1

データ利活用研修
～tableauを添えて～



- ・ グラフ化や項目の修正など時間短縮につながると感じた。
- ・ 簡単にデータをグラフ化できそうで、エクセルよりも便利そう。
- ・ わかりやすく要点を把握する事ができると思いました。

（1度目の研修参加者の声）

3. 橋本市

R6年度DXの取り組みと成果

- ①部署間の壁を越えた課題共有の実現
- ②和歌山県との連携を実施
- ③業務改善に係る職員研修の実施

できるだけ庁内で抱えているDXに関する悩みなどを吸い上げ、部署間を越えてよろず相談会の活用に努めました。

また、教育委員会の関係については県と調整し、協議の場をもてたことが良かった点です。



よろず相談を活用した取り組みと成果（上記と対応）



- ①在宅勤務制度について県を参考にしながら検討を行いました。
- ②教育委員会の業務効率化を図るためのネットワーク環境について県と協議しました。
- ③職員研修はグループワークでゲーミングも行いました。

次年度の取り組み予定

- ①教育DXの推進
- ②生成AIツールの活用
- ③書かない窓口の更なる促進

教育DXは引き続き推進し、書かない窓口については運用方法を見直すことにより、申請手続きに要する時間の短縮をさらに図り、市民が利用しやすい窓口を目指します。



出典：文部科学省HP GIGAスクール構想の下
での校務DXについて
ICTによる個別最適な学びの支援



ガイドラインを作成し、
適切な利用及び活用促進



アウトソーシング人材も活
用した窓口改革

4. 紀の川市

※ご欠席につき担当プロデューサー代読

R 6 年度DXの取り組みと成果

- ①全庁で利用できる生成AIの導入
- ②DX推進のための研修の実施
- ③原則固定電話を廃止し職員一人一台スマホの配布

生成AIの導入や利用についてのワークショップを開催したり、その他のサービスの研修を実施することで、職員のDXに対する関心の向上に取り組みました。



よろず相談を活用した取り組みと成果（上記と対応）

- ①DX関連の研修を開催しても参加者が少なく困っていたが、対象者や内容等の研修の進め方を相談した結果、生成AI研修では研修参加者が他の研修よりも集まり、また研修後の利用が拡大した。
- ②ネットワーク関連の見積りについて、相談したことで費用を少し抑えることができた。

次年度の取り組み予定

- ①システム標準化への対応
- ②庁内ネットワークの更改
- ③職員一人一台配布のスマホの利活用

来年度はシステムの標準化へ向けて注力します。

また、今年度配布したスマホについても、業務効率化に利用できるよう活用方法を考えます。



職員用スマホの利活用



ネットワークの更改

5. 岩出市

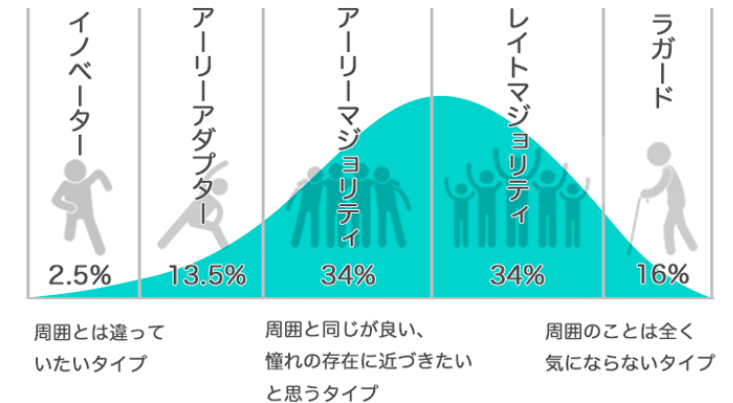
R6年度DXの取り組みと成果

- ①組織文化の変革・機運醸成を図ることを目的とした研修の実施
- ②オープンデータの推進
- ③行政手続きのオンライン化の推進

(情報通信技術を活用した行政の推進に関する条例の制定)

今年度は、組織全体の文化を変革する端緒づくりのため、「アーリーアダプター」への職員の育成を目指して研修等のDXの取り組みを進めました。

岩出市



よろず相談を活用した取り組みと成果（上記と対応）

- ①経営・財務マネジメント事業を活用した研修の実施（計3回）
(サービスデザイン、マネジメント、ほんまに「やめること」ワークショップ)
- ②オープンデータカタログサイトの開設
(各課にオープンデータの作成を依頼中)



岩出市
オープンデータカタログサイト
IWADE CITY Open Data Catalog Site

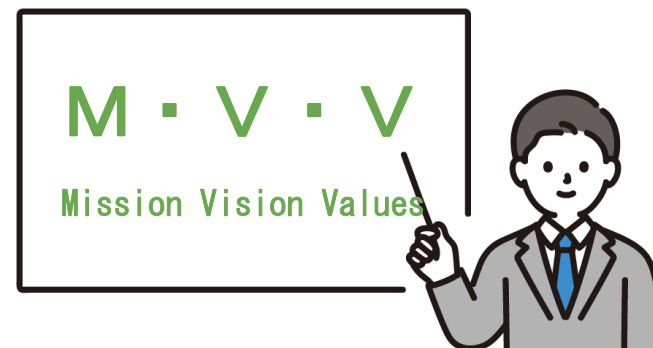


次年度の取り組み予定

岩出市

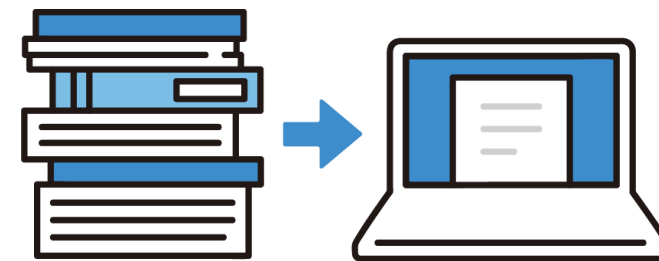
①DX推進計画の策定

DXに関する使命(Mission)、将来像(Vision)を明確にするため、行動指針(Values)となるDX推進計画を策定します。



②文書管理・電子決裁システムの導入に向けた各種検討・調整

グループウェア内のノーコードツールを活用した電子決裁の試用など、文書管理・電子決裁システムのR8年度導入に向けて、各種検討・調整します。



③公式ウェブサイトのリニューアル

岩出市全体の情報発信機能の強化を目指し、広報媒体を連携することで誰でも情報が手に入りやすい環境を構築します。



6. 紀美野町

R6年度DXの取り組みと成果

～人材育成に捧げた1年～

- ①職員ITパスポート取得を支援しました。
- ②意識改革のためのDX研修会(講師：菅原氏)を実施しました。

今年度、DX推進室が総務課から企画管財課に所管替えとなり、引継ぎの際に感じたことが「計画や体制は整っているが職員の意識がまだまだ低い」でした。

そこで今年度は「人材育成」をテーマに取り組みを実施しました。

ITパスポート受験の状況

- ・予算20名分に対しR7.3までに20名受験予定！
- ・R7.2現在、合格者☆☆名！



よろず相談を活用した取り組みと成果（上記と対応）

- ①ITパスポート取得における情報提供
- ②意識改革のためのDX研修会における菅原氏との調整

次年度の取り組み予定

- ① 統合型GIS導入に向けた取り組み！
- ② ITパスポートの取得促進～続編～
- ③ 意識改革のためのDX研修会の実施～発展～
講師：菅原氏（予定）

R7年度は、DX推進部会で検討し庁内統合型GISの導入に向けての取組を進めます。
また、ITパスポートについては今年度の経験を踏まえながら、取得者を増やします。
R5、R6と2年実現している菅原氏の研修会をR7も実施し、「人材育成」と「意識改革」に取組んでいく。

ITパスポート試験の感想 ☆

- ・ 自分が受験するなんて想像もしなかったが、取り組むうちに楽しくなってきた。
- ・ 次こそは必ず。。。

ITパスポート試験勉強中！



菅原氏研修会の感想♪

- ・ デジタルを利用するDXについてだけでなく仕事全般についてのお話であったため、まずは自分の仕事に対する考え方から変えていけると思った。
- ・ 今まで考えた事のなかった考え方をしていた。

デジタル技術は手段であって目的ではない
みんなにやさしい



脱デジタル宣言

～旅する副町長による働き方を再デザインする警備町の挑戦～

2019年に全国の自治体で初めて最高デジタル責任者(CDO)を配置した福島県警備町。自治体DX(デジタル変革)の先進事例として国やメディアで紹介されることも少なくないが、当初から目的としていたのは単なるデジタル化の推進ではなく、町のミッション・ビジョンの実現であり、そのための「手段として、デジタル技術『も』活用する」という行政運営の追求でした。2021年8月には、「後デジタル宣言～デジタルからデザインへ～」を宣言し、まちづくり、行政運営、働き方等のあり方を脱デジタルから「再デザイン」する方針性を明確にしました。2024年3月には、全国の自治体に先駆けて創設した「デジタル変革戦略室」を全面的に解消し、抜本的な組織改革と副町長2名制を開始しました。

そこで、今回は警備町「旅する」副町長の菅原直敏氏を講師として、警備町が進める「脱デジタルのしあわせ共創・協創プロジェクト」の概要と「働き方の再デザイン」、また「デジタル人材の育成と確保」についての取組と希望をお話することで、参加者の多様な働き方に対する認識共有・意識醸成を図ります。



旅人・ソーシャルワーカー。神奈川県出身。
一般財団法人代表理事。
現在、福島県警備町「旅する」副町長(最高デジタル責任者、最高情報セキュリティ責任者兼務)。
日本初の自治体CDOとして、自治体DXの認識共有・意識醸成、方針策定、推進体制整備、県・市町村連携において、自治体の政策形成に資する事例を創出。
企業経営者でもあり、大企業・自治体から中小企業・自治体まで、経営・DX・ITにおける経営戦略・組織変革・業務改革等のデザインを得意分野とする。また、和歌山県・市町村総合プロデューサーとして、県と30市町村の協働・共創をデザインする。大田市DX・経営担当政策アドバイザー。
警備町行政経営戦略推進委員会。

開催日時 10月23日(水) 10時00分～12時00分
開催場所 紀美野町中央公民館 大ホール
講師 菅原直敏氏(福島県警備町「旅する」副町長)
(和歌山県・市町村DX総合プロデューサー)

7. かつらぎ町

R6年度DXの取り組みと成果

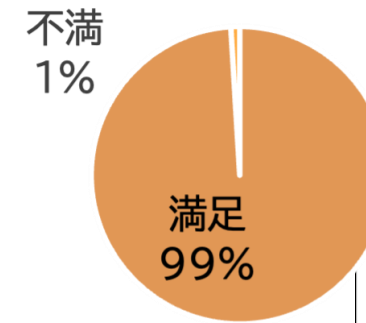
①明確な目標設定

②各課へ声掛け強化、情報収集

③DX方針の策定

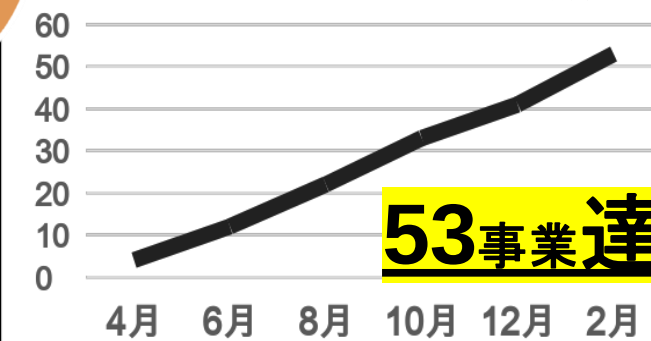
DXの主担当がいない中、危機感を抱いた職員が『よろず相談』をきっかけにDXを推進。目標設定、情報収集を進め、役場全体を巻き込み、町のDX方針策定に至った。

LINE欠席連絡の満足度



利用住民の**99%が満足**

オンライン申請導入事業数



53事業達成!

よろず相談を活用した取り組みと成果（上記と対応）

①デジ田交付金KPIの達成

②首長面談とDX研修（課長対象）の実施



管理職員のはじける笑顔★

機運の高まり

次年度の取り組み予定

①DXの所管係「情報政策係」の新設

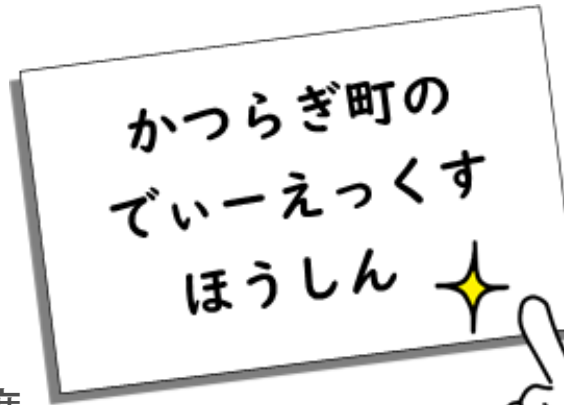
②DX推進方針の施行と推進

③各課ヒアリング・DX推進計画の検討

R6年度は、ボトムアップでのDX推進がメインとでしたが、次年度は、DX推進方針を施行し、トップダウンのアプローチを強化。各課と連携しながら、さらにDXを推進し、行政サービスの住民満足度向上を目指します。

現在、作成中！
(今年度中に完成)

トップダウン



令和6年度役場内の変化（担当者の肌感）

年度当初

え、DXって
なに？？？
おいしいの？

役場職員
↓



デラックスケーキなら知ってる。。

年度末

DXって、DX
だよね。ウウ。
大事だよね。



8. 九度山町

令和6年度DXの取り組みと成果

令和4年度から実施している人材育成事業と、そこからつながる組織的な業務改善活動への移行準備

人材育成事業内において、「業務改善」や「雑務退治」をテーマとして研修を実施し、改善提案を作成した。

また、「窓口改善」、「職員の兼業」、「廃校施設の有効活用」の3つのワーキングチームを立ち上げ、町長へのプレゼンを実施した。

成果

- 改善意識の醸成
- 活発な意見交換
- 横断的なチーム編成によるコミュニケーションの増加
- 提案が改善につながったものや新規事業として進める予定となったのものもあり

よろず相談を活用した取り組みと成果（上記と対応）

- ① 「業務改善型」の業務改善の仕組みの導入に向けた相談
 - ② 業務改善研修の実施
- 次年度へ

その他

- ① 勤怠管理システムの導入
- ② クラウド型音声ファイル文字起こしサービスの導入
- ③ 警戒情報支援サービスの導入

9. 高野町

※オンライン

R6年度DXの取り組みと成果

高野町

- ①コミュニケーション基盤の整備を行いました。
- ②電子文書管理に着手しました。
- ③現場主体の気付き発掘を行いました。

今年度は、グループウェアの導入によってコミュニケーション基盤を整備しました。現場の声を聞き、職員の理解度を把握しながら段階的にグループウェアの機能を開放していくことで、職員の混乱を避けつつDXを推進しました。



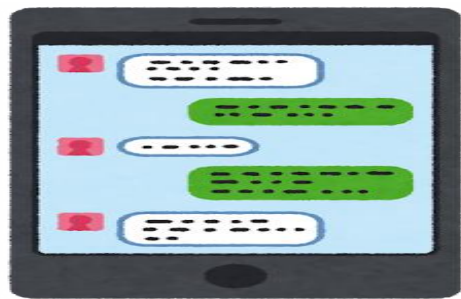
よろず相談を活用した取り組みと成果

- ①他企業の電子文書管理方法を拝見し、それを基にマニュアルの策定に着手しました。
- ②よろず相談でのお話から、excelを用いて業務の問題、原因、対策、経過を纏め始めたところ、現場の話だけで終わらせず、業務改革(BPR)に役立てる起点を作ることが出来ました。

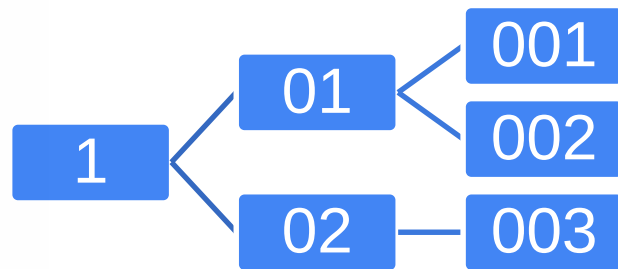
次年度の取り組み予定

- ①コミュニケーション環境の確立
- ②電子文書管理の具体的なルール策定
- ③気付き発掘を基にしたBPRの実施

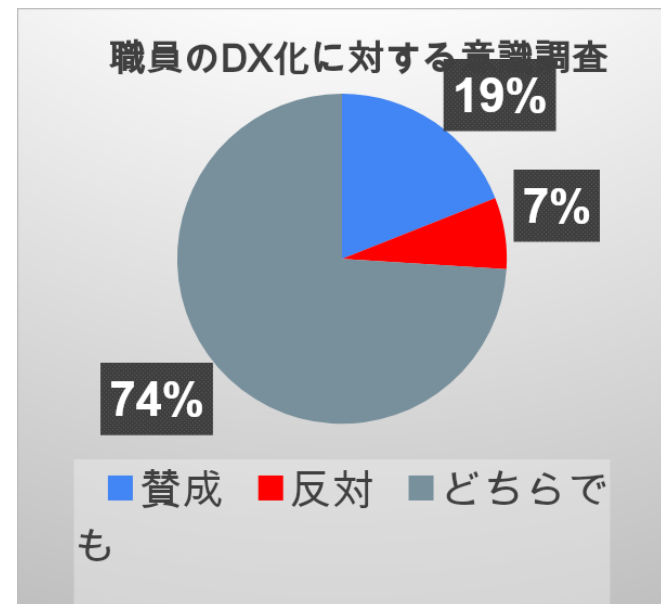
上記の通り、令和6年度に行った事に引き続き取り組む予定です。
現状、DXの取り組みは総務課が中心となって行っていますが、
チャットツールの導入や電子文書管理、会話を通した気付き収集
などを通し、他課を巻き込んで職員の機運醸成を行ってまいります。



チャットツールの導入



フォルダ管理



※図はイメージです。

会話の中からの気付きの例

- ・人口統計を作成しているが、実際活用されているか？自動化出来ないか？
- ・直通番号から外線を使用する組織文化がないため、誰が電話をかけたかわからないことが多い。

気付きを基にしたBPR